

医療法人 新都市医療研究会
「君津」会 南大和病院
〒242-0015
神奈川県大和市下和田1331-2
TEL 046-269-2411
発行責任者／藤井 真
編集者／みなみやま広報委員会
発行日／平成22年11月10日

YAHOO!のキーワード
“南大和病院”で
アクセス可能!!
URL/<http://www.minamiyamato-hosp.or.jp>
是非アクセスして下さい

救急から在宅医療まで

南大和病院にロゴマークができました。



みなさんお気づきになりましたか？ 病院の一番上の高座渋谷駅側に青色と黄色のマークが付きまして、今号はこのロゴマークについてご説明します。



【ロゴマークの意味】

○形は大和(YAMATO)のYを表しています。
○色は、右にリッブイエローと左にネイビーブルーを使用しています。右の黄色は銀杏色(神奈川県の木)、左の青は神奈川県の色(神奈川県ブルー)です。

【ロゴマーク・看板取付工事】

◆西側(正面入口)屋上壁面にロゴマークの取付工事を9月26

日・10月3日の2日間に行いました。正面入口に高所作業車を設置しての工事となるため、あまり人の出入の少ない日曜日に行うようにしました。



◆工事内容は、まず壁面にアンカーを打ちボルトを差し込みそこに文字をはめ込んでいき、最後に文字枠でフタをするというものです。



◆文字は、アクリル板とアルミ複合板の2重構造になっていて、その間にLEDランプを取付、夜になると文字が浮かび上がるように光って見えるようになります。

◆この壁面に看板を取り付ける事により街道からでも当病院を認識できるようにになりました。

今後いろいろなところでこのマークを目にされるかもしれませんが、よろしく願います。

(文責 編集委員 中根)

副院長就任の挨拶



新副院長
池田重雄 医師

2010年9月1日の人事異動により副院長に就任致しました。

副院長と職名は変わりましたが、就任以前からの病棟、外来、透視センターでの仕事自体に大きな変化はありません。そして当院の方針でもあります、古い権威を捨て、患者様の身になって、できる限りの最善の医療、大学病院や、癌センター等にも負けない内容の医療を、病院内医療関係者が一丸となつて、一人一人の患者様に提供する姿勢は全く変わりありません。しかしながら、病院全体の他の職種との連携に関わる業務もかなり増え、改めて、副院長としての責任を感じ気の引き締まる思いであります。

私は平成3年に東京大学医学部を卒業後、東京大学医学部附属病院、河北総合病院、癌研究会附属病院、茨城県立中央病院・地域ガンセンターで外科の臨床に従事しておりました。学生時代に、専攻する科を選ぶ折にかなり真剣に外科以外の科に進むことを考えた時期もありましたが、当時の東京大学医学部附属病院第二外科(現在の腫瘍、血管外科)の仕事、仲間

で楽しく、そして厳しくこなす姿勢、現在の当院の院長の藤井先生、そして大先輩である朝隈先生をはじめとする諸先輩方の人柄と真面目さにひかれ、卒業後第二外科での研修を大学ではじめました。その後、上記のセンター病院での胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌などの消化器癌、乳癌の診断、手術、抗癌剤治療を忙しながらも充実した形で勉強させていただくことができました。途中、医学博士取得後は米国に留学する機会を得て、テネシー大学、ウイスコンシン大学で、ポスドクとして、外科の侵襲と栄養との関連について動物を用いた基礎研究とICUでの重傷患者様の予後を改善する栄養療法についての臨床研究とに従事してきました。動物を用いた基礎研究では、小さな研究室ではありますが、研究のチームリーダーとして何人かの仲間と意見をかわして、実験の指揮をとっていました。その後、日本に帰国して、癌研究会附属病院、茨城県立中央病院・地域ガンセンターで中堅スタッフとして、若手外科医とともに、外科手術、抗がん剤治療等に邁進する日々を送っていました。その後、大学での仕事に就く道もあつたのですが、現在の理事長である池田貞雄先生の、今まで得た医療知識、技術を地域の患者さんのために役立ててはどうだとの勧めもあり、5年前から当院で働かせて頂いておりました。まだまだ力不足のことも多いのですが、今回副院長を拝命することとなり、今まで以上に研鑽を積み、地域の皆様に役立てるように努力するつもりであります。

現状と今後の抱負

現在の医療界をとりまく現実はいかに厳しく、医療不信、医療裁判などが声高にいわれております。南大和病院も大学病院のようになん

でも治療のできる病院ではありません。しかし、我々スタッフの得意な分野では、例えば、消化器がん、乳がん治療、腎臓病、透視治療、リウマチ、糖尿病、リハビリ、NST、褥瘡等の診断、治療においては、地域の病院でありながら、スタッフの力量とまとまりは大学病院などの高度医療施設と変わらない治療ができると自負しております。そして、これ以外の疾患に関しても、関連大学、専門病院からのスタッフの応援により、地域の患者様に最善の医療を提供して、役立つことができると思っています。もちろんすべての疾患の治療が当院で完結できるわけではありません。このような疾患では、地域の医療機関との連携をはかりながら、専門病院での治療が早期に開始できるようにしたいと考えています。

現在、南大和病院グループは、病院、透視センター、さくらばらざ、リハビリ病棟、リハビリセンターといくつかのセンターを持ち、そこには様々な職種の職員が患者さんのためにとの気持ちを持って働いております。自分にとっての仕事は、今後も慢心せず、たえまなく自己革新しながら、正しい医療を地道に実践して行くこと、さらにはこの様々な部署の職員が、横のつながりを持ち、楽しく、かつ最大限に力を発揮でき、それが来院される患者様の治療、リハビリに最大限生かされるように努力していくことではないかと考えております。

拙い文章ではありますが、副院長就任の挨拶にさせていただきます。と思います。

知って得する病気の知識

リハビリはいつまで必要か？

第20回の「知って得する病気の知識」は三院の理学療法士・永山部長にお願いしました。



リハビリテーション部 部長 永山定男

平成18年度より病院で行うリハビリは発症後180日まででうち切りとなりました。この改正に対し、多くの障害者団体、医療関係団体による反対運動が行われ、失語症などの特殊な疾患はある程度継続可能に変更されましたが基本的な部分の変わりはありません。そこで、「リハビリ（特に脳卒中後遺症に対するリハビリ）」はいつまで続けるべきか？について考えてみたいと思います。



麻痺の回復は6ヶ月が限界？

厚労省がうち切りの根拠としたのは「脳神経の回復が期待できるのは半年くらいまでであり、それ以上リハビリを続けても効果的な回復は望めない」とする学説である。実際はどうでしょうか？

の患者さんの脳神経の回復による明らかな麻痺の改善は4〜5カ月で止まり、それ以降は目を見張る様な身体機能の回復が図れることはあまりないようです。しかし、だからといってリハビリを終了していいのでしょうか？

麻痺や身体機能が改善しなくても：

南大和クリニック通所リハビリには、脳卒中を発症して半年以上経過し、医療でのリハビリを終了した方々がたくさん参加しています。

参加開始時には歩行困難で車椅子でも、いつの間にか杖で歩いて参加している方が多くいます。この方々は通所リハビリの効果で身体機能が改善したのでしょうか？ いや、この方々の麻痺の状態は開始時と歩けるようになった現在もほとんど変わっていません。何故、歩けるようになったのでしょうか？

そこで、発症後一年を経過したAさんとBさんを比べてみましょう。

Aさんはほとんど自分の意思では足を動かさないような重度の麻痺が残っていますが、足に装具を着け杖を使って一人で買い物に行っています。

しかし、Bさんはとても軽度の麻痺しか残っていませんが一人では家の中すら歩けません。この二人の歩行能力（生活能力）の違いはどこから来るのでしょうか？

【経験】

AさんもBさんも、誰かが側で軽く支えれば歩ける状態

で家に退院しました。この誰かが側に居て歩く経験を続けられれば歩けるようになり、誰かがいなくて歩く経験が続かなければ歩けなくなるのです。Aさんは通所リハビリに参加してこの経験を続け、Bさんは家に引き籠もって歩く経験を継続しませんでした。

【環境】

実は、AさんもBさんも入院中は足に装具を着けて歩く練習をしていました。

退院後、Aさんは通所リハビリで屋外用のしっかりとした装具を作成し、そして、外に出やすいようにと玄関に手すりを着ける等の家の改修を行って、外を歩くりハビリに取り組みました。Bさんは装具を着けるのが面倒でカッコ悪いからと家の中を歩く時も着けずにいました。しだいに歩いてトイレに行くのも面倒となりシピンを使用していました。

【意欲】

いつまでも一人で黙々と機能回復の努力を続けていける立派な人はめったにいません。リハビリに参加することで、同じような障害を抱えて闘っている仲間やリハビリの専門家からアドバイスや励ましをうけ、何とか意欲を持ち続けることができるのです。

リハビリ継続の意義

このように、生活機能をアップさせていくためには、麻痺等の身体機能の改善が終了した後にも「経験」「環境」「意欲」をリハビリで継続して調整していくことが必要なのです。

【問題点】

たしかに「この役割を医療で行う必要があるのか？」と

いう疑問は感じます。

つまり、医療保険によるリハビリが終了した後に介護保険による充実したリハビリを提供できる施設が全国的に少ないというところが問題なのです。

南大和クリニックの挑戦

南大和クリニックでは「医療に負けないリハビリを介護保険で提供する」をスローガンに、介護保険が施工された平成12年より10年以上もこの課題に取り組んできました。ぜひ、医療におけるリハビリが終了した後は、当通所リハビリセンターで「経験」「環境」「意欲」を充実させてどんな生活機能アップさせていくてくください。



リハビリの継続を支える南大和クリニック通所リハビリのスタッフ



通所リハビリで熱心にリハビリに取り組む利用者の方々

防災訓練

病院では、年3回全体で防災訓練を行っております。9月25日に今年2度目の防災訓練を実施しました。

今回の訓練は、4階厨房より出火した想定で行い2階談話室に模擬患者を集めて、火災発生の場合とともに各部署より応援がきて、2階から避難させるという訓練を行いました。その際避難経路は、非常滑り台（外階段）を使用するのではなく西側の内階段を使用しての避難誘導を行いました。



2階談話室から模擬患者を避難させる



歩行不安定の患者を想定しての避難誘導



目の不自由な方を想定しての避難誘導



シーツを担架がわりにして避難誘導する男性職員



災害対策本部に誘導され助け出された模擬患者達



災害対策本部長に状況報告を行う

最後の総評で、参加していただいた職員全員、真剣に取り組む笑顔で行っていた者は誰一人いませんでした。しかし、声出しが小さかった。もっと大きな声を出し合った方がよい。実際の災害現場では、混乱していて大きな声でなければ相手に伝わらないはずなので普段の訓練の時から大きな声出しは心がけるべきであるとのことでした。

今後、南大和病院では、防災に対する意識を強く持ち訓練を継続的にやっていきます。

(文責 編集委員 中根)

通所リハビリ参加に関するお問い合わせは左記相談窓口へTEL 046(269)6027担当者・渡辺または白波瀬まで

部署紹介



部署の紹介(PR)を今号では薬剤部と3階病棟にお願いしました。

薬剤部

「安全で効率的な薬物療法に貢献する」を基本理念に、薬剤師5名が薬に関するさまざまな業務にあたっています。薬剤部の内部とともにご紹介いたします。

【医薬品情報室】

医薬品の情報を集中的に管理し、薬局ニュース・薬事委員会の資料作成などで必要な情報を医師などに情報提供しています。また、全入院患者さんの薬歴を管理し、内服・外用・注射・検査薬、検査データおよび患者さんの状態などを総合的に把握し安全性のチェックを行っております。



【注射準備室】

入院患者さんの注射薬をクリーンな環境下で調製しています。クリーンベンチ(中心静脈栄養剤調製用)、安全キャビネット(抗癌剤調剤用)を使用し、ハイリスクな患者さんの注射剤を無菌的に調剤しています。



【調剤室】

主に入院患者さんの調剤を行っています。自動分包機を使用し、必要な患者さんには二包化調剤を行っています。また、麻薬、生物製剤をはじめ医薬品の在庫管理、発注業務を行っています。



3階病棟

病棟では看護師管理薬のセット、自己管理できる患者さんへの配薬、服薬指導を行い、安全で確実な服薬ができるようサポートしています。以上大まかな業務内容をご紹介します。薬に関することは薬剤師に気軽に声をかけください。(文責 薬剤部 宿利)

こんにちは。3階病棟です。外科系の患者様を中心とし、名前の通り3階フロアのほとんどを占めている病棟です。ベッド数は46床あり、4床の大部屋と2人部屋、個室があります。大部屋はベッド間隔も広くゆったりしており、窓が大きいので明るい病室です。



特別室

す。南西の角にある特別室は、ユニットバスや応接セット、クローゼットを備え、患者様はもちろんご面会の方もゆったりと過ごすことができます。

手術を目的として入院される方には、不安なく安全に手術が臨めるようオリエンテーションを計画的に行っています。手術後は、安静や感染予防の目的で数日間



病棟スタッフ

静かな個室にて療養して頂きます。術後のつらい痛みは積極的に鎮痛剤で取り除き、合併症予防のため早期離床を勧めています。医師、看護師で万全を期して体制を組んでおりますのでどうぞご安心ください。当病棟は3名の外科医師と看護師16名、准看護師6名、看護助手6名、クラーク2名の総勢33名のスタッフで構成されています。

それ以外にも患者様の病状、状態により、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、言語療法士、臨床工学技士、ケースワーカーなど多くのスタッフが関わっており、患者様について情報交換や方向性を決めるカンファレンスも積極的に行っています。



カンファレンス風景

時には、患者様ご本人やご家族様にも参加して頂き、退院後の不安や問題点について話し合いの場を設け、安心して自宅療養へ移行できるよう様々なサポート体制を整えています。ともあれ入院患者様の日常をお守りしているのは一番傍にいる看護師であり、治療の介助から身の回りのお世話、様々なストレスを抱える方のサポート等一人一人が誠意をもって対応させて頂いております。治療がメインの入院生活ですが、健康を取り戻しつつ体と共に心も癒し、笑顔で退院して頂けるようスタッフ一同常に努力し続けたいと思います。(文責 3階病棟 山本)

第7回大和市 消火技術大会に参加

大和市防火安全協会が主催する消火技術大会が10月6日に引地台公園にて開催され、市内42事業所などから50チーム約110人が参加しました。競技は、1号消火栓の部・2号消火栓の部・消火器の部があり、定められた消火活動のタイムを競うものです。当院は、2号消火栓の部に2階病棟より看護師の南さんと、介護福祉士の遠藤くんが出場しました。結果は準優勝でした。



消火器にて初期消火活動



(文責 編集委員 中根)

この大会には、毎年参加しており優秀な成績を毎年収めておりますが、ここ数年優勝からは遠ざかっておりますので、来年こそは優勝を目指して頑張りたいと思います。



表彰され満面の笑みの南さんと遠藤くん



二人で力を合わせ2号消火栓にて消火活動

インフォメーション

インフルエンザ予防接種のご案内

今年も10月1日より、インフルエンザの予防接種を開始しております。今年、季節性・新型混合ワクチンで1回接種法です。当院では中学生以上の方を対象に行っております。

〈費用〉

大和市在住の65歳以上の方は12月までは、市からの補助があり1,500円で接種することができます。その他の方は3,600円です。生活保護・中国在留邦人・非課税世帯の方は費用が免除となります。

〈申込み方法〉

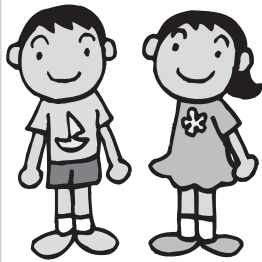
申し込みは受付にて、予防接種希望とお申し付け下さい。

がん健診のススメ。

毎年、4月1日より11月30日(大和市乳がん検診無料クーポンは除く)の期間で行われております大和市がん検診(胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん)の締め切りが近くなっています。11月末は混雑が予想され、胃がん検診などの検査の予約がいっぱいになり次第、受付を終了とさせていただきますので、ご了承ください。

併せて便や痰の検体の提出のほうも、早めをお願い致します。尚、乳がん検診の無料クーポンをお持ちの方は、12月以降の検診も可能です。乳がん検診は予約制となりますのであらかじめお電話か来院の際に予約をお取り頂きますようお願い致します。

リレーエッセイ



執筆者に次のエッセイを
紹介頂き、どんな職員間に
エッセイの輪を広げていきま
す。31番目は検査科の富坂美
さんです。

検査科勤務、34歳、二児の母です。上は4歳(幼稚園年中)下は2歳(在宅児)です。出産時仕事を続けることと決めた時(辞めるという選択肢はなかったですが)知り合いにこれから大変なこともあるかも知れないが、大変と思わず当たり前のことだ、と思って生活した方がいい」と言われました。至言です。

一日のタイムテーブルは、6時に起きて朝食の準備、子どもの世話、お弁当作り、時々掃除、7時台に上の子を幼稚園に送りつつ出勤、大抵5時に仕事が終わって必要に応じて買い物して帰宅、洗濯物取り込みつつ畳みつつ、夕飯準備、子どもと遊ぶ(これはかなりお手伝い要素が強いです)6時台お風呂(この後すぐに洗濯機まわします)、7時台夕食、9時寝かしつけ、その後洗濯干し、翌日の朝食下準備、翌日の幼稚園準備、時々掃除(箒、雑巾で)、アイロンがけとなります。時々部分があやしいところですが、子どもを育ててのメリットは自分のキャパシティが増えたところ。生活のあらゆる面でかなり代用品があるのだと実感しました。こだわりの捨てれば大抵のことは質を落とさず時間内に済ます事

ができます。2つめは仕事のイライラをプライベートに持ち込まなくなったこと。以前は仕事の失敗を思い出して布団のなかで悶々としていましたが、今はそんな暇がないです。3つめは今まで関心がなかった部分に興味を持てた事。私の場合は新生児、乳幼児教育(国内・海外)、戦争時の子育て、福祉です。



うちの可愛い子達です

い事ですし(私は週に一度21時近くまで仕事の日があります。ちなみに大抵この後買い物をして帰ります。)逆も然りです。実母も2歳4歳の子ども(孫)と触れ合うことは決して大変なことばかりではないと思います。子どもたちも色々な人がいて、色々な考え方があって、夫と母が読んだら怒りだしそうな文章になってしまった。

今回のリレーエッセイの執筆者は、検査科の吉田秀美さんです。どうぞお楽しみに!!

納涼祭の季節がやってきた

今年の夏は猛暑でしたね。

まだ暑さが残る8月21日、納涼祭が盛大に行われました。

普段のユニフォーム姿からエプロンに着がえた職員達が焼きそば・焼き鳥をつくります。香ばしいかおりに誘われ、次々と売れていきます。



ポップコーンいかがですかー



祭りの定番盆踊り

おながが満たされた頃に始まったのは、恒例のスイカ割り大会。元気な子ども達が棒にぎりしめ、スイカに向かって一直線!!しかし、今年のスイカはなかなかの強敵。南大和が誇る男性職員が助っ人に登場しましたが、びくともしません。格闘すること40分、パシッと響いた音とともにようやく割れたのでした。

(文責 編集委員 桐沢)

外来診療予定(平成22年11月1日より)

*夜間19時00分まで外来受付しております。ただし専門外来は予約が必要です。

*土曜日は16時00分までの外来受付となっております。

		月	火	水	木	金	土
AM 9:00 ~ AM 12:00	一般	大津副院長(内科) 竹中(外科) 廣瀬(内科) 片平(外科) 朝隈(外科)	丸岡(内科) 金子(外科) 中川(内科)	藤井院長(総合) 池田副院長(外科) 廣瀬(内科) 正木(外科) 清水(内科)	藤井院長(総合) 大津副院長(内・DM) 廣瀬(内科) 日吉(外科) 城(内科)	藤井院長(総合) 朝隈(外・乳腺) 片平(内科) 河野(内科) 斉藤健(外科)	池田副院長(外科) 片平(内科) 天野(胸外) 小川(胸外) 根津(外科)
	予約 専門	(整形)伊藤	(総合)池田理事長 (呼吸器)加藤	溝口(内・リウマチ) (整形)原 (腎内)上竹	(DM)高地	(総合)池田理事長 (整形)松原	(DM・内分泌)本田 (整形)山本 (リウマチ)橋本嘉 (泌尿器)田邊 (腎内)吉村
PM 2:00 ~ PM 4:00	一般	藤井院長(総合) 朝隈(外・肛門) 丸岡(内科)	藤井院長(総合) 金子(外科) 中川(内科)	大津副院長(内・総合) 竹中(外科) 安芸(内・呼吸器) 道下(内科) 溝口(内・リウマチ)	丸岡(内科) 日吉(外科) 木村(内科)	池田副院長(外・乳腺) 河野(内科) 斉藤健(外科) 上田(外科) 星(内科)	大津副院長(内・DM) 根津(外科) 竹中(外科)
	予約 専門	(整形)伊藤	(循環器)鈴木	(血管)新本 (腎内)上竹 (整形)原	(循内)橋本通 (DM)高地	(循内)辻 (糖尿病)鈴木真 (整形)松原	(循内)青木 (整形)山本 (リウマチ)橋本嘉 (循内)折茂 (形成)門田 (DM・内分泌)本田 (血管外科)新本 (泌尿器)田邊
PM 5:00 ~ PM 7:00	一般	丸岡(内科) 星(内科) 竹中(外科)	金子(外科) 中川(外科)	正木(外科) 道下(内科)	日吉(外科) 城(内科) 木村(内科)	星(内科) 上田(外科) 清水(内科)	
	予約 専門	(脳外科)茂野 (整形)伊藤		(整形)原	(脳外科)熊井	(整形)松原	

上記の予定は都合により変更になることがあります。ご了承下さい。

医療法人 新都市医療研究会「君津」会 みなみだま

